

現役教師ですが  
“教育”について  
こんなことを考えてます。

—これからの教育を担う人たちへ—



受験生にとって聞けそうで、なかなか聞く機会がないのが現役教師の教育観。

毎月1つのテーマを取り上げ、先生方の考えを聞いてみました！

今月のテーマ：「外国人から見た日本の英語教育」

小学校の英語教育が完全実施となります。しかしながら、日本の英語教育にはまだまだ課題があります。海外から日本に来て英語を指導している2人の先生は、日本の英語教育をどのように感じているでしょうか。

著 石澤ファラ

フィリピン出身。平成31年に英語専科講師になる。現在、千葉県八千代市立董田小学校講師。

著 坂本レイシェル

アメリカ出身。平成31年に英語専科講師になる。現在、千葉県八千代市立大和田南小学校講師。

## フィリピンから日本へ来た理由(石澤ファラ)

私はフィリピンのマニラで生まれました。フィリピンは世界有数の英語を話す国の一つです。学校では英語とフィリピン語の両方を使い、テレビでも英語を聞き、字幕なしで英語の映画を見て、英語の新聞や雑誌を読んでいます。

私が初めて日本に来たのは18歳の時でした。私の通っていたマニラの大学と上智大学とで行われた1カ月間の学生文化交流に参加したのです。初めて見た日本という国は、私を夢中にさせました。

そして大学卒業後に再度来日し、日本語学校で学びました。日本語を学ぶことにはとても興味があったので学校はとても楽しかったです。しかし物価の高い日本で生活するためにはアルバイトをする必要がありました。

ある英会話教室の会社に応募した時のことですが、英語で電話した後、彼らのオフィスに面接に行くと、私がフィリピン人であると分かった途端、ドアさえ開けてくれませんでした。当時、英会話学校はたくさんありましたが、私のようなアジア人の時給は、ネイティブスピーカーの半分以下でした。マニラに戻っ

た後は、日本のテレビ局のマニラ支局で秘書として働きながら、また日本に行き、もっとたくさん日本語を勉強したいと思って貯金しました。

## 大勢の子供たちに英語を教える充実感

3度目に来日した時は日本語学校の授業数を増やし、平日は9時から正午まで毎日通いました。そして、私のようなアジア人でも英語を教えることができる小さな英会話学校で働きました。1年半後、日本語での日常会話に自信が持てるようになったので、日本語学校を辞めて外国人タレント事務所のマネージャーとして働きました。

その後、夫と結婚し東京で生活しましたが、後に千葉県に引っ越し、八千代市でALTとして教え始めました。かつて教えていた英会話学校と比較すると、大勢の子供たちに英語を教えることには大きな充実感があります。子供たちが英語を学び、楽しんでい

る姿を見て、これは私の使命だと実感しました。また、新たな責任感も生まれました。

日本が国際的になるにつれて、私たち教師は英語にもっと興味を示すことが必要になります。子供た

ちは、将来、世界規模で活躍する人材です。学校は英語についてもっと学習しやすい環境を提供し、英語に慣れさせることができればよいと思います。例えば図工・家庭科などを英語で教えるイメージ教育は、学んだ英語をより強化することができます。

現在、英語教育はグローバル時代に必要なものであるという認識が高まっています。そして今は「英語教育を改善する時代」だと思います。まずは、それを重要なテーマとしてとらえ、子供たちと教師がそれについてもっと真剣に考えるべきです。

## 英語はみんなを結びつける言葉

(坂本レイシェル)

私はニューヨークのクイーンズ出身ですが、来日前はカリフォルニア州ロサンゼルスに住んでいました。これらの都市は、どちらも異なる民族、文化、人々の生活であふれています。私自身、バイリンガルの家庭出身です。私の親戚の多くは白人、黒人、アジア人の混血であるため、親戚の集まりはいつもおもしろいものでした。アメリカの他の地域と同様に、英語はみんなを結びつける言葉なのです。

アメリカの大学ではビジネスコミュニケーションを専攻していましたが、大学最後の年に、先生になりたいと思うようになりました。卒業後、数年間働きましたが、先生になる夢をあきらめることができず、英語の学位を取るために大学に戻りました。その後ご縁があって日本の小学校でALTの仕事に就き、すぐに夢中になりました。2年間勤務した後、八千代市教育委員会で3年間勤務し、小学校英語専科講師として小学校英語特別免許状を取得しました。

私が日本に来て感じたことは、小学校では読み書きの技能を高める時間が、中学校では会話の練習の時間が少ないということです。子供たちの多くは、自分が考えたり感じたりしたことを表現するのではなく、試験に合格できる英語を学ぶことを重んじており、これが日本の英語教育を停滞させている原因

だと思います。英語にもっと興味を持たせることを重視したほうがよいのではないのでしょうか。

## これからの英語教育に期待すること

他の言語と同様に、英語は継続的に学習する必要があります。そして、ALTはそれぞれの国の文化や習慣の違いを紹介する「大使」として活動しています。しかし、実際の授業では、何をしたらよいのか分からないことがあり、多くのALTが困っています。

子供たちが英語に興味を持つようにするためには、担任の先生方と十分な話し合いをする必要があります。みんなが充実した時間を過ごせたなら、その授業は成功したと感じるし、子供たちがより英語に興味を持ったなら、担任の先生もさらに自信を持つことができます。私はまだ新米の先生なのですが、異なる教え方を学ぶことは、自分にとって贈り物のようなものだと思っています。

私は学校で、子供たちの日常生活の中で、なぜ英語が必要なのかを関係づけることに時間をかけています。つまり、子供たちにグローバルな考え方を身につけさせるという視点から始めるべきだと思います。

また、子供たちの英語への関心や意欲は、教師が与えるエネルギーや情熱が反映されているということも分かりました。成功している学級の多くは、教師が献身的であるということです。

今勤務している大和田南小学校では、言語の授業の領域を超えたイメージ教育を通して、いろいろな教科を英語で学習しています。これは言語を応用する最適な方法です。若い先生方の多くは、視野を広げ、世界を見て、様々な人々とコミュニケーションを取ることに意欲的です。子供たちが国際社会の中で、日本の可能性を発信することができるような大人に成長するよう、先生方の情熱や熱意を目の前の子供たちに伝えてほしいと思います。

### 今月のまとめ

- 日本が国際的になるにつれて、教師は英語にもっと興味を示すことが必要になる。
- 子供たちの英語への関心や意欲は、教師が与えるエネルギーや情熱が反映される。
- 様々な教科を英語で学習するイメージ教育は、言語を応用する最適な方法である。